

生駒市立 鹿ノ台小学校

令和6年度 学校評価総括について

2025.3.20

学校教育目標 ブランドデザイン

学ぶ意欲と豊かな心を持ち、
たくましく生きる子どもを育てる

教育目標を達成するための土台

〈今年度の重点〉

- 信頼される学校づくり
- 多様性への理解と規範意識の向上
- 授業づくり

令和6年度 生駒市立鹿ノ台小学校の教育

学校教育目標

学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる

〈自ら学ぶ意欲：知〉

- ・興味を持って探究する。
- ・目標を持ち、工夫し、努力し、挑戦する。

〈豊かな心：徳〉

- ・命を大切にする。
- ・相手を思いやる。
- ・互いに協力する。
- ・正しく判断する。

〈たくましい体：体〉

- ・気力と体力に満ちる。
- ・挑戦を続け最後まで粘り強くやり抜く。

【めざす子ども像】

あかるく やさしく たくましく

【めざす学校像】

- ・地域と共に歩む学校
- ・改善を続ける学校
- ・子どもの力を引き出し、伸ばす学校

【めざす教師像】

- ・子どもに寄り添う教師
- ・日々研鑽に励む教師
- ・信頼される教師

- 一人ひとりの子どもと向き合い、児童理解に努める。
- 情報共有と共通理解を図り、協働して子どもの支援に努める。
- 共に高め合い、励まし合う集団作りに努める。

指導体制の充実、家庭や地域との連携と協働

今年度の重点

多様性への理解と規範意識の向上

- ① 決まりを守り、優しい気持ちの醸成と自己有用感を高める取組の推進
 - ・善悪の判断を育てる道徳教育
 - ・自分らしさへの気づきと自己有用感を育てる取組
 - ・家庭と連携したICTモラル教育
- ② 多様性への理解や自分らしさを発見し互いに尊重しあう態度の育成
 - ・障害や不登校、外国籍、LGBTQ等の多様性の正しい理解と支援
 - ・不登校児童等の居場所づくり

主体的・対話的で深い学びの推進

- ③ 児童が主体的に協働して学び、考えを広げ深める学習の推進
 - ・児童同士の意見交流と考えを深める授業づくり
 - ・書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実
- ④ 地域と連携した郷土学習やキャリア教育の推進
 - ・地域学校協働本部や市教委等と連携した特色ある取組

保護者、地域から信頼される学校づくり

- ⑤ 問題行動への組織的な対応
 - ・外部専門機関や学校運営協議会、地域、保護者との連携
- ⑥ 「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進
 - ・分かりやすい情報の発信

自己評価と外部アンケートの分析

- 教員自己評価

10月末・2月中旬

- 児童アンケート

10月初・1月末

- 保護者アンケート

1月末

成果と課題及び対策について

(1)多様性への理解と規範意識の向上
に関わる評価項目(P5～)

(2)主体的・対話的で深い学びの推進
に関わる評価項目(P10～)

(3)保護者、地域から信頼される学校づくり
に関わる評価項目(P15～)

(1)多様性への理解と規範意識の向上

①決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

【アンケート結果】

◎「きまりを守る」

◎「善悪の判断等を道德の授業でしっかり考えた」

◎「学校楽しい」

「考え深まった」

「うまく伝える」

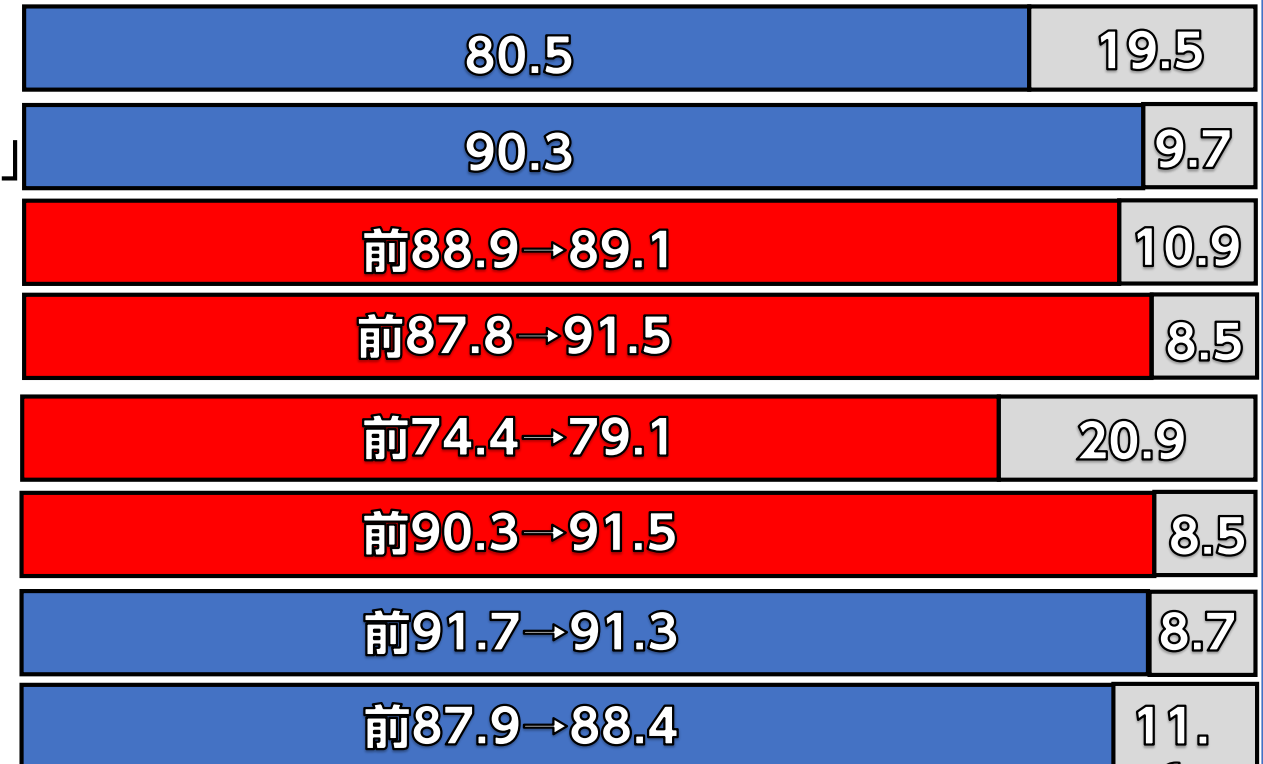
「がんばっている」

自己有用感
達成感

◎「あいさつ」

◎「思いやりのある言動」

児童アンケート
「できた/概ねできた」の割合



(1)多様性への理解と規範意識の向上

①決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

【成果と課題】

◎自己有用感、達成感↑

◎廊下歩行…教員による指導＋児童会の取組「標識掲示」

▲取組に対する児童の振り返りの弱さ ▲教員がいない場面の課題

◎挨拶と言葉…「鹿小だより」＋全校朝会＋地域＋昇降口

▲「しね」などの言葉の軽さ、感情的になって悪態をつく事例

【来年度に向けて】

☑PDCAを意識させた取組の継続

☑雰囲気づくりとルールについて子ども達と考える機会

☑各部の連携した取組

☑集会・発表の場づくり、のびのび班活動の取組の推進

①決まりを守る気持ちを育てる/あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

- 「知らない人」を警戒する風潮もあり、どこまで声をかけて良いものかためらう場合がある。しかし、地域の一人として登下校中の子どもたちが危ない行為をしている場合は、声をかけるようにしたい。地域で、子どもたちを見守り、育てていく必要がある。
- 学校の取組を引き続き行っていてほしい。
- 登下校中、挨拶をする児童が増えている。立哨中の地域の人に、優しく声をかけてくる児童が多い。学校の取組の成果だ。
- 一方で、声をかけても返事が返ってこない子も少しいる。挨拶などは、学校での指導も大切だが、家庭での教育が一番である。
- 声を出すこと、目を合わせることが苦手な子もいる。その子の性格も分かった上で、関わっていくことが大切だ。

(1)多様性への理解と規範意識の向上

② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

【成果と課題】

- ◎教員アンケート「授業や取組、研修ができた」 90%
- ◎LGBTQの取組(職員研修、生駒市人権教育研究大会発表、全学年授業)
- ◎国際理解教育(1年、2年)
- ◎通級指導の啓発授業

【来年度に向けて】

- ☑通級指導については、担当教員の時間割がタイトであるが、
対象児童がいる学級を対象に計画的に通級指導の啓発授業を取り組む
- ☑LGBTQや発達障害などの様々な特性を持つ児童、登校渋りなど
不登校傾向の児童が増えてきているので、研修と啓発とともに
不登校ルームなどの児童の居場所づくりなど体制づくりを進める

② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

□高山サイエンスプラザがあり、小さいころから外国籍の子と関わりがあり、本校の良さの一つだ。

□身近な友達を通して国際理解を進めていくことが重要である。取組を続けてほしい。

(2)主体的・対話的で深い学びの推進

- ③ 児童同士の意見交流と考えを深める授業づくり
書いて表現する意欲を高め表現力を育成する取組 発信する場の充実

【意見交流の機会】

⑧児童同士の意見交流を取り入れた授業を6割以上の時間において設定するよう心掛ける。



⑪授業中、意見交流しながら課題を解決する機会があった

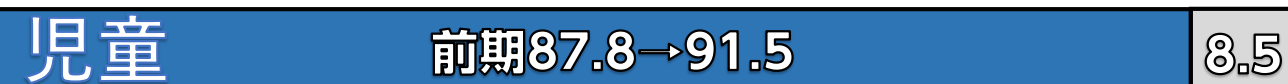


【考えの深まり】

⑨タブレット端末を使って、課題解決のために調べ学習や意見交流で学びが深まったと感じる児童を増やす。

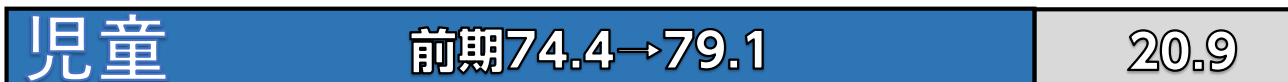


⑫自己探求と意見交流によって考えが深まった



【伝える】

⑩考えたことを人に伝えることがうまくできた



⑬自分の考えを書いたり説明したりするのが好きだ



前期 43.5
昨年 39.0

(2)主体的・対話的で深い学びの推進

- ③ 児童同士の意見交流と考えを深める授業づくり
書いて表現する意欲を高め表現力を育成する取組 発信する場の充実

【成果と課題】

- ◎意見交流の機会 増➡学びの深まりを実感
- ◎考えを伝える力 ついてきた
- ▲教員による指導や取組によるもの
- ▲自信のなさ、失敗をおそれる、緊張？
➡「好き」と思えない児童の多さ

【来年度に向けて】

- ☑自分の考えを伝えたい、知ってほしいと思えるような取組の継続
- ☑発表の機会の工夫と充実
- ☑児童の主体的な協働的な学び+個別最適な学びの推進

③ 児童同士の意見交流と考えを深める授業づくり

書いて表現する意欲を高め表現力を育成する取組 発信する場の充実

学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

□タブレット端末の教育効果について検証をしてもいいのではないか。タブレット端末を1つのツールとして位置づけ、子ども自身が、自分の学習のために効果的で最適な方法(ツール)を選択できるように指導してほしい。

□話をして伝えることはできるようになってきたが、自分の思いや考えをまとめて文章にして書き表すことが苦手なようである。意図的に書く機会についてもできるだけ多くとり、書く力をつけてほしい。

(2)主体的・対話的で深い学びの推進

④ 地域と連携した郷土学習やキャリア教育の推進 地域学校協働本部や市教委等と連携した特色ある取組

【アンケートから】

- ⑫地域人材を活用した出前授業やキャリア教育を推進する。
- ⑭地域の方に教えてもらったり一緒に活動したりする学習ができた
- ⑪地域の方から学び、一緒に活動していることを知っているか

教員	81	19
児童	79.6	20.4
保護者	78	22

【成果】

◎授業支援や出前授業

家庭科ボラ、まちたんけん・校区探検の引率、昔遊び、星を見る会、囲碁クラブ、電波教室、地域環境教育など

◎情報モラル教育

・1/17ドコモ 1～5年 2/25KDDI 6年

・保護者のバ 96名の参観

「家では話ができないことを伝えてくれていて参考になった」
「今日のことをきっかけに家でも話をしたい」との感想

【来年度に向けて】

☑鹿小らしい取組として、児童が主体となって協働して取り組む学習を一層充実させていく。

☑対象学年をしばらく学習内容を精査し、引き続き情報モラル教育の出前授業を実施する。保護者と共に学ぶ機会を模索したい。

- ④ 地域と連携した郷土学習やキャリア教育の推進
地域学校協働本部や市教委等と連携した特色ある取組

学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

- 地域と協働して、学校の特色である教育活動や地域の人との交流を十分に行っているので、もっと評価してよいと思う。
- 地域と学校が協働して取り組んでいることを自治会内でももっと知ってほしい。自治会として、発信できないものかと思っている。

(3)保護者、地域から信頼される学校づくり

⑤ 児童の問題行動への対応

【取組】

◎児童連絡会(月1回)の定例開催、情報共有

◎個別事案への対応

- ・ケース会議での対応の協議と実行
- ・市教委、スーパーバイザー、SC等専門家との連携

◎低学年に見られる問題行動への対策

- ・低学年担当少人数指導教員の配置(1年、2年)

◎専科加配➡教科担任制の試み

【来年度に向けて】

☑学級の状況を担任ひとりが抱え込まず、学年、職員全体が把握しやすい環境づくり

☑低学年担当の少人数指導を来年度も置き、児童の安定のため支援ができる体制づくり

⑤ 児童の問題行動への対応

学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

□学校の先生は、たいへんだと思うが、引き続き取り組んでほしい。

(3)保護者、地域から信頼される学校づくり

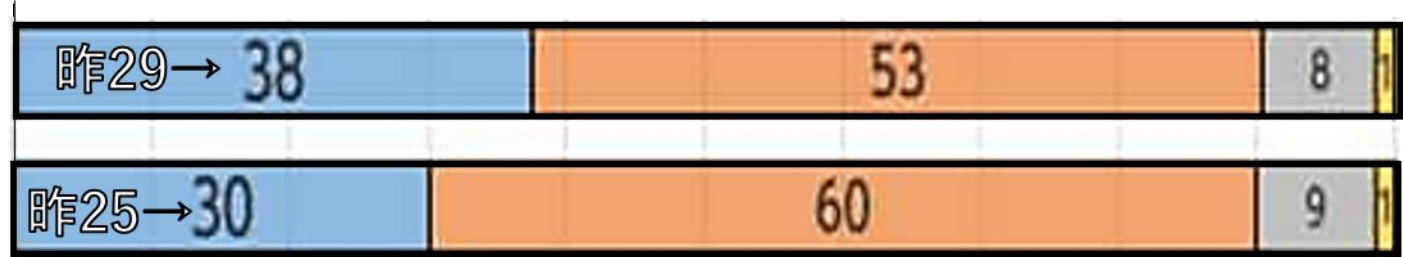
⑥「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進

学校の方針や授業、学校生活の様子などを分かりやすく発信

【保護者アンケート】

⑭学校は保護者や子どもに寄り添い家庭と連携を図ろうとしている

⑮学校の様子は分かりやすく伝わっている



【取組】

◎「鹿小だより」…月に2回発行

- ・事実だけでなく、その意義やねらいについて言及
→鹿小の特色「らしさ」について考えるきっかけ

◎X…平日1回程度投稿

- ・校内掲示、「鹿小だより」に一部掲載
- ・より多くの人目に触れるよう努める

【来年度に向けて】

- ☑児童や担任の目にも触れてほしい→紙発行
- ☑届かない家庭がある→すぐ一斉配信
- ☑より見やすく分かりやすくする工夫
- ▲「月に一度は学級だよりを」の声
- ▲学級懇談会への参加率の低さ

⑥「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進

学校の方針や授業、学校生活の様子などを分かりやすく発信

学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

- 「学校だより」を民生児童委員の集まりでも配布し読んでもらっている。児童の様子を知ってもらうことは大切なことだ。
- 学級だよりを見たいと思う保護者もいるが、発信する側の教員の負担を考慮し、子どもに直接関わる業務を優先してよい。
- 教員の負担を軽減するためにも、例えば高学年児童が行事や地域との関わりを発信するなどのやり方も考えてみてはどうだろうか。

来年度残された課題

(1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

- ① 決まりを守り、人を思いやる言動を育て自己有用感を高める取組の推進
- ② 多様性への理解や自分らしさを発見し互いに尊重し合う態度の育成

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 児童の主体的で協働的な学びと個別最適な学びを意識した授業づくり
- ④ 児童同士の意見交流を通して考えを深める授業づくり
- ⑤ 書いて表現し説明する意欲を高め、表現力を育成する取組
- ⑥ デジタル機器に限らず学習の内容や目的に合わせ、有効で最適なツールを選択できる力の育成

(3)保護者、地域から信頼される学校づくり

- ⑦ 地域と連携した郷土学習など特色のある学びの推進
- ⑧ 問題行動への組織的な対応
- ⑨ 「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進